

●地域環境科学部森林総合科学科（中一種免（理科）・高一種免（理科））

①教員養成に対する理念

森林総合科学科では、「森林」という用語を、林業・林産業や農村・山村等をも含むものとして捉え、自然科学と社会科学の両観点から、まさに総合的な教育・研究を実施してきた。

「森林から学び、森林に学び、森林を学ぶ」をモットーに教育の全課程を組み立て、まず、森林の機能について学ぶことにより森林そのものを理解し、次いで、森林の利用に関する理論や技術についての理解と習得をとおして、森林と人間との関係についての価値観や考え方などを総合的かつ実践的に指導してきた。

こうした学科教育を支えることを目的として、4分野8研究室を配置している。具体的には、森林の機能・機構への接近を目的とする「森林環境保全分野（森林生態学研究室・治山緑化工学研究室）」、木材に代表される森林資源の生産に関わる「森林資源生産分野（造林学研究室・林業工学研究室）」、森林資源の有効利用に関わる「森林資源利用分野（木材工学研究室・林産化学研究室）」、森林と人間の関係性について考究する「森林文化情報分野（森林経営学研究室・森林政策学研究室）」である。

②教職課程の設置趣旨

本学科では、上記の諸成果の応用あるいは社会還元のための具体的な取り組みとして、長年に亘り理科の教員養成に務めてきた。

前期中等教育における理科教育（中学校理科）では、人間を含む生物の生息・生育環境、自然界で起こる諸事象の科学的な解明・理解、そしてそれらを通じた環境評価の手法の獲得等々が目指されている。森林という総合的なシステムの解明・理解・保全技術の獲得等を教育の主要な柱としてきた本学科においては、そうした森林に関する専門性を具備した人材が、その学習経験や研究成果を社会に還元する方途の有力な一つとして理科教育を通じた次世代の育成を位置づけている。

こうした人材の輩出を目指し、

- 1)全学および学部の共通科目、
- 2)学科の基礎科目、
- 3)学科の専門基礎科目、
- 4)学科の専門コア科目、
- 5)総合科の科目等を開設し、基礎から応用に至る教育の体制を構築している。

本学科では、これらを通じた学生教育により、教員に求められる、自ら問題を発見し、その解決方法を考え実行し、そして学習者に寄り添いながら伝えることができるという資質を備えた人物の育成を遂行している。